



## 創立の背景と歴史

アメリカ南長老教会は、日本への宣教として南長老ミッションから1885年(明治18)グリナンとロバート・E・マカルピンを派遣しました。彼らは高知県で伝道を始め、1888年(明治21)名古屋に金城女学校(現・金城学院)を設立しています。ちなみにノーベル文学賞を受賞した(1938年)パール・S・バックは、南長老ミッションの宣教師である両親と中国に渡り、育ちました。『戦える使徒』(1936年)に描かれた宣教師の姿は、まさにグリナンとマカルピンの同時代を映し出しています。

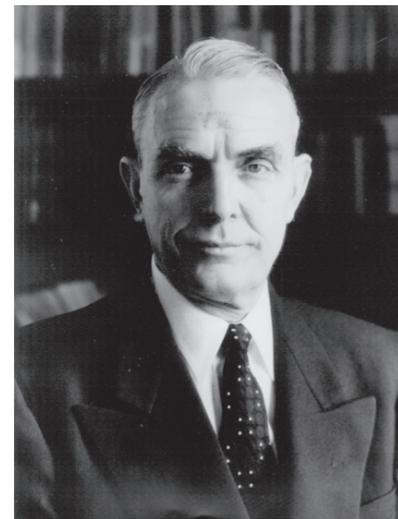
プロテスタント教会の源流は、ドイツの神学者マルティン・ルターが1517年にローマ教会の墮落に抗議(プロテスト)した「贖宥状批判」にあります。16世紀ヨーロッパの宗教改革(プロテスト運動)の中で、スイス・ジュネーヴのジャン・カルヴァンが指導した教会を「改革派教会」(英語ではリフォームド・チャーチ)と呼びます。ルターの宗教改革が信仰の改革に徹していたのに対し、カルヴァンは主に礼拝様式と教会制度の改革に着手しました。長老教会は改革派に属しており、アメリカ南長老教会というのは南部の長老教会のことで、1861年の南北戦争のときに南部と北部に分裂したことによります。

戦前の日本の教会は、宗教団体法によって国家への従属を強制され、多くの場合、旧・日本基督教団に加盟していましたが、敗戦と同時に信仰の自由を与えられると、南長老教会及び中央神学校の信仰を受け継ぐ人たちが中心となって、日本基督教団を離脱。1946年(昭和21)日本キリスト改革派教会を創立しました。戦前に、戦争協力と国家神道儀礼を拒絶することができなかった反省を踏まえて、「神の御前に深く恥ぢ」と『創立宣言』に記しています。創立時のメンバーは、岡田稔、常葉隆興、松尾武、春名寿章らです。日本キリスト改革派教会では、四国学院大学、淀川キリスト教病院、聖恵授産所(広島県竹原市)や、静岡キリスト改革派盲人伝道センター(静岡市駿河区)などの障害者支援施設の働きを支援しています。

1947年(昭和22)教職養成機関として、神戸改革派神学校が設立。神戸改革派神学校の設立には、宮城遥拝と神社参拝などに抵抗したため1942年(昭和17)閉鎖された中央神学校の卒業生の岡田稔らがかかりました。

四国学院 初代学長のモーアは、その父ジョン・M・モーアも南長老ミッションの宣教師で、高知・須崎や高松を中心にして伝道しました。高知県出身で東京帝国大学(当時)に学んだ物理学者で随筆家の寺田寅彦の日記の中に、その名を見つけることができるといいます。

モーア自身も1924年(大正13)宣教師として来日。中古のジープを駆って、愛媛県と香川県を中心に、四国各地を伝道しました。ジープに乗ってやってきたモーアは、当時の人にとって新しい世界であると同時に、新しい福音の象徴でした。学校経営の経験がなかったモーアは苦勞したといいますが、自分が学生だったころの経験と、教会史に目を通してアメリカのキリスト教主義大学の変遷などを学び、参考にしていきました。



創立者 Laedner Willson Moore (1899~1988年)  
ユーモアがあり、口笛を吹き、  
大股で颯爽と歩いたテキサス男子でした。



## 創立

アメリカ南長老教会(当時)の3Mと呼ばれる宣教師J・A・マカルピン(ロバート・E・マカルピンの息子)、W・A・マキルエン、L・W・モーア(ジョン・M・ムーアの息子)と日本人キリスト者によって、1949年(昭和24)10月20日に、財団法人四国基督教学園(四国学院の前身)の設置が認可。初代理事長に、L・W・モーアが就任しました。これに先立ち、旧・大蔵省財務局ならびに普通寺町と話し合い、元・騎兵隊跡(現在地)を譲り受けることを実現しています。設立時には地元からの反発も大きかったのですが、のちに在籍した石丸新教授の父が牧師であり、普通寺市の市会議員だったことが幸いし、普通寺市議会、香川県教育委員会などの協力・援助を得ることができました。

翌年4月には、モーアを初代学長とする4年制の男子のためのリベラル・アーツ・カレッジ 四国基督教学園が開学。1959年(昭和34)1月学校法人四国学院の設置が認可

され、4月には開学記念講演会として前・東大総長矢内原忠雄博士による「信仰と教育」を開催しました。

当時、四国の片田舎であった普通寺では、他のキリスト教主義の学校との交流を願う教員には、赴任の気持ちを起こさせることが難しく、せっかく赴任しても研究費などの予算が少ないために、他校に移っていく教師も多かったといえます。そういう状況下で、1992年(平成4)まで教員全員が信仰告白したクリスチャンであることを定めるという〈クリスチャン条項〉を堅持(当時としては日本で唯一)していたことは驚愕に値します。

設立間もない学校に入学する生徒は少なく、神戸の改革派神学校の学生が、四国基督教学園の上級生として出発することになりました。そのときの一年生には石丸新の姿もありました。学生の数より教員のほうが多く、アットホームな学園生活だったといえます。

## 建学の精神

四国学院建学憲章

四国学院は、1949年に米国南長老教会宣教師と日本人キリスト者によって、福音主義キリスト教信仰に立つ高等教育機関として設立された。わたしたちは、その歴史的背景をいしずえとして、ここに、ミッション(使命)とそのミッションを中核において推進する基本理念を定める。

〈わたしたちのミッション〉

四国学院は、キリスト教信仰による人格の尊厳と自由を基盤として、人が生涯にわたって必要とする、豊かな人間性の醸成に寄与する教育を行なう。

〈わたしたちの基本理念〉

- ・神と人にと奉仕する。
- ・「人間観」の批判的検証をともないながら、正義と平和、人間の自由と尊厳を追求する。
- ・他者との協同精神のもと、豊かな知性と思考の自由、研究の創造性と独立性を強く推奨する。
- ・身近な地域社会を、広い視野でとらえ、深く理解する人間を尊重する。
- ・異なった文化、異なった者を受容する感性を涵養する。
- ・感傷や同情に留まることなく、福祉を求めて社会的現実を真摯に理解し、課題に取り組む人間を尊ぶ。
- ・他者への真の福祉を目指し、虚偽に陥らない感性と資質を養成する。
- ・精神と同じく、人間存在の身体性が肝要であると考える。
- ・思考すると同時に、実践する人間を求めらる。



四国学院 校章・マーク  
2010年度に前田一樹デザインによる新デザインに一新されました。イニシャルの融合と循環を表現し、新たな記号の誕生から「生」を標榜し、知の生成を象徴しました。シンボルを囲むのは、マタイによる福音書5章13節の文句。一対の生命の樹は力強い芽吹きを象徴しています。

## 学校法人 四国学院

〒765-8505 香川県普通寺市文京町3-2-1

TEL : 0877-62-2111 FAX : 0877-62-3969